



取扱説明書



運転する前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

PS250

Honda車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。

この車の排気量：249 cm³ (cc)
排気量により必要な免許が異なります。

★この車の乗車定員は、運転者を含め2人です。
なお、運転免許を取得後1年未満の方は、法令により2人乗りはできません。

排出ガス規制について

★この車は排出ガス規制適合車です。
PS250
(BA-MF09 型)：
平成10年排出ガス規制適合車

お車について

★この車は、連動ブレーキシステムを装備しています。
詳細については、16 ページを参照ください。

取扱説明書について

安全に関する表示について

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



お車のために守っていただきたいこと



知っておいていただきたいこと

知っておくと便利なこと

目 次

安全運転のために	6
各部の名称	14
連動ブレーキシステム	16
メータの見かた、使いかた	17
計器類	17
速度計(スピードメータ)	17
積算距離計(オドメータ)	17
区間距離計(トリップメータ)	17
燃料計	18
警告灯・表示灯	19
水温警告灯	19
パーキングブレーキ警告灯	20
方向指示器表示灯	20
前照灯上向き表示灯 (ハイビームパイロットランプ)	20

スイッチの使いかた	21
メインスイッチ	21
前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)	23
パッシングライトスイッチ	23
エンジンストップスイッチ	24
スタータスイッチ	25
ホーンスイッチ	25
方向指示器スイッチ	26
非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)	27

装備の使いかた	28
パーキングブレーキ	28
ハンドルロック	29
シャッター	30
ヘルメットホルダ	31
シート	32
シートのスライドのしかた	32
リヤシートの起こしかた	34
リヤシートの倒しかた	34
フロントシートの脱着	36
リヤデッキ	37
フロントキャリア	38
ユーティリティボックス	39
書類・携帯工具入れ	39

燃料の補給	40
正しい運転操作	43
エンジンのかけかた	43
スタートするとき	48
正しい走りかた	50
ブレーキの使いかた	51
止まりかた	53

目 次

メンテナンスを安全に行うために.....	56	冷却水.....	81
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス.....	59	冷却水量の点検.....	81
日常点検.....	61	冷却水の補給.....	82
定期点検.....	64	バッテリー.....	84
簡単なメンテナンス.....	66	バッテリーターミナル部の清掃.....	85
ブレーキ.....	67	バッテリーの取付け、取外し.....	86
ブレーキ液の量の点検.....	67	クリップの取外し、取付けかた.....	87
ブレーキパッドの摩耗の点検.....	68	ヒューズ.....	88
左ブレーキレバーの遊びの点検.....	69	ヒューズの点検、交換.....	88
ブレーキシューの摩耗の点検.....	70	ファイナルギヤオイル.....	91
パーキングブレーキ.....	71	オイル量の点検.....	91
パーキングブレーキグリップの		オイル漏れの点検.....	92
引きしろ.....	71	ベルトケースエアクリーナ.....	93
タイヤ.....	72	ベルトケースエアクリーナの	
空気圧の点検.....	72	点検、清掃.....	93
亀裂と損傷の点検.....	73	エアクリーナ.....	94
異状な摩耗の点検.....	74	エアクリーナエレメントの交換.....	94
溝の深さの点検.....	74	ケーブル・ワイヤ類.....	96
交換タイヤの選択について.....	75	ラバーブーツの点検.....	96
エンジンオイル.....	76	ケーブル・ワイヤ類の点検.....	96
オイル量の点検.....	76	ブリーザドレン.....	97
オイルの補給.....	77	ブリーザドレンの清掃.....	97

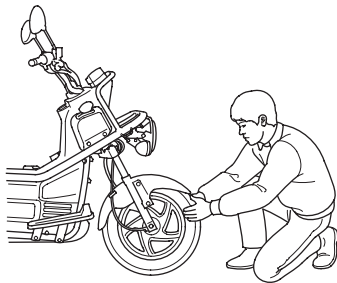
車のお手入れ	98
アルミ部品の取扱い	101
つや消し塗装の取扱い	101
保管のしかた	102
地球環境の保護について	103
お車および部品等の廃棄をするとき	103
色物部品をご注文のとき	106
マフラの純正マークについて	106
フレーム号機	107
オーバーヒートしたとき	108
エンジンが始動しないとき	109
主要諸元	110
サービスデータ	112

安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

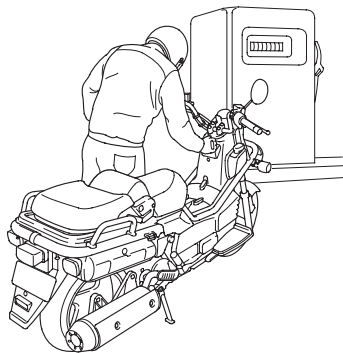
運転する前に

- 日常点検を行ってください。
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
日常点検は、61 ページ参照。

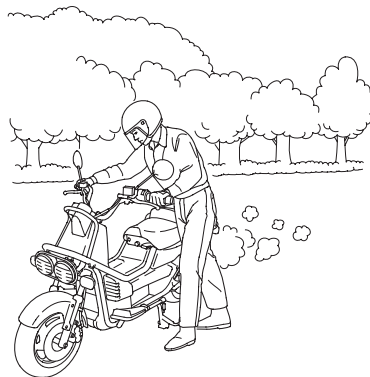


- 定期点検を実施してください。
定期点検は、64 ページ参照。

- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



安全運転のために

服装

- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。
ヘルメットは二輪車でPSC、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっかり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
 - ・くるぶしまで覆う靴の着用
 - ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
 - ・長ズボンと長袖のジャケットの着用
 - ー明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
 - ーすその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキ操作などの運転動作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

警告

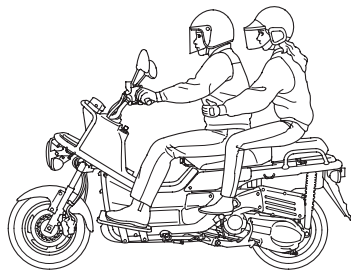
ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。



乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- 二人乗りをする場合は必ずリヤシートを倒した状態で乗車してください。
- 同乗者は、両足を後席用ステップに置き、両手でからだを保持してください。運転者は、同乗者の乗車姿勢を確認してください。



- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。
これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



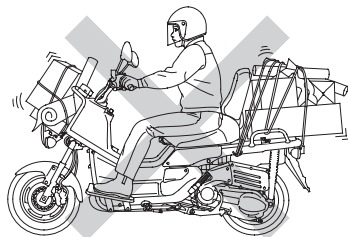
安全運転のために

荷物

- 荷物を積んだときは、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”など十分注意し、安全に走行してください。
- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。
- フロントキャリアに荷物を積み過ぎるとハンドルがふられ、運転を誤まる場合があります。フロントキャリアには荷物を積み過ぎないようにしてください。
- 荷物を積むときは、車体からはみ出したり、ヘッドライト・方向指示器・ストップ・テールランプなどの灯火器類をさえぎるような積みかたはしないでください。

- 荷物は指定の場所以外には積まないでください。カバー等が破損することがあります。
- レンガや鉄片等、固くて重いものを積載スペースにのせたり、入れた状態で走行しないでください。積載重量以内でも積載スペース自体や付近のカバー等が損傷する場合があります。

フロントキャリアへの最大荷物重さ； **3.0 kg**
リヤデッキへの最大荷物重さ； **20.0 kg**
ユーティリティボックスへの最大荷物重さ； **1.5 kg**



改造

- 車の構造や機能に係る改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。
不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。
- この車は平成10年排出ガス規制適合車です。
排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。

安全運転のために

駐車

駐車するときは

盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。また、メインスイッチのシャッターを閉じ、シャッターのキーもお持ちください。

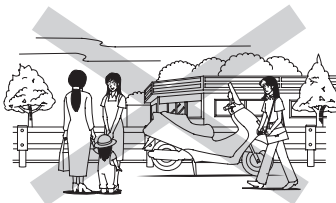
- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- やむをえず傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

サイドスタンドでの駐車について

車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。

ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒する恐れがあります。

- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。

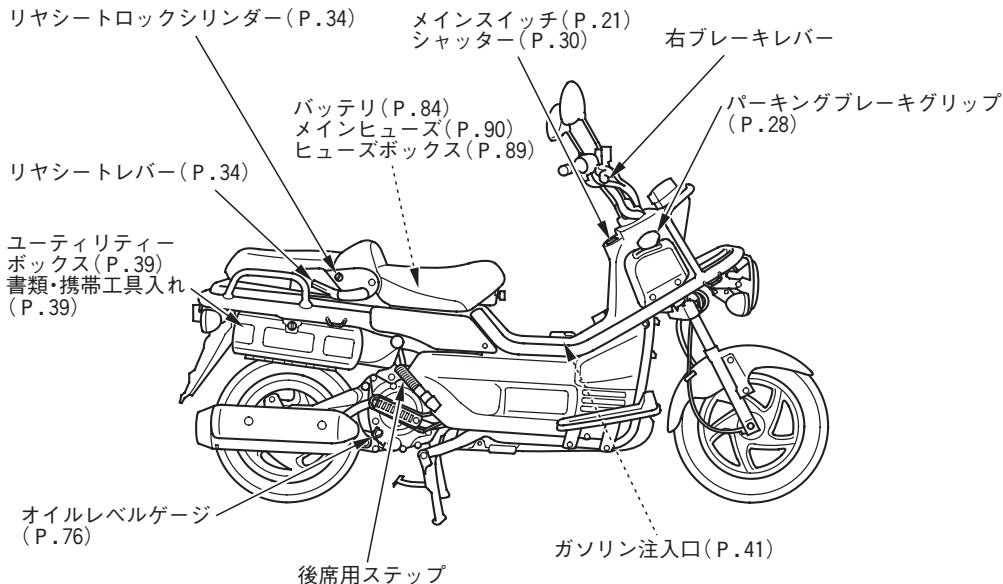


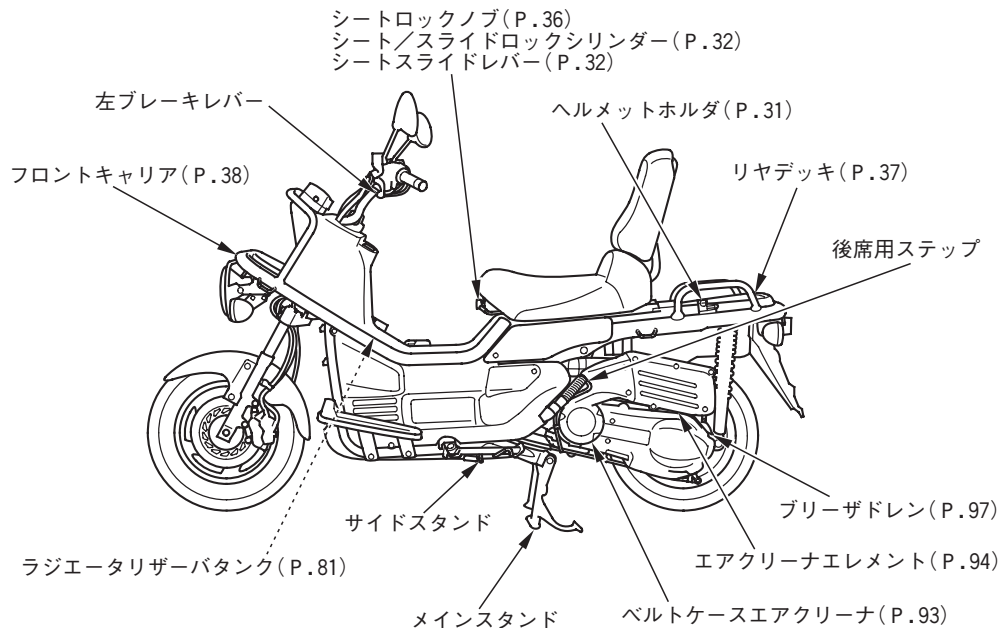
注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

各部の名称





連動ブレーキシステム

連動ブレーキシステム

- 左ブレーキレバーを操作すると後輪ブレーキが作動するとともに前輪ブレーキが作動します。
- 右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

メータの見かた、使いかた

計器類

速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。
白地に黒数字は100 mの単位です。

4桁目(1,000 kmの位)の1と6は橙色地に白数字で表示します。

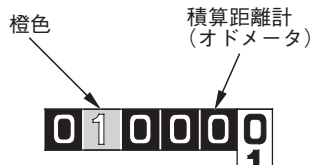
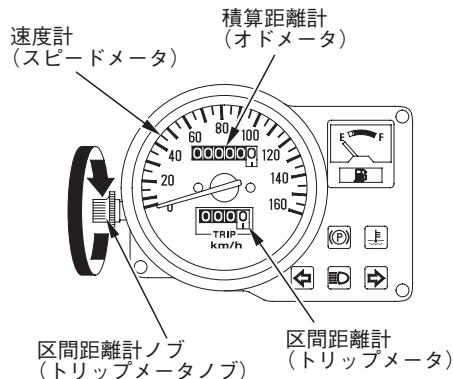
橙色に変わったときにエンジンオイル交換の目安です。

(エンジンオイル交換については、79ページを参照)

区間距離計(トリップメータ)

メータを“0”に戻した時点からの走行距離を示します。

戻すときは、区間距離計ノブ(トリップメータノブ)を矢印の方向に回します。



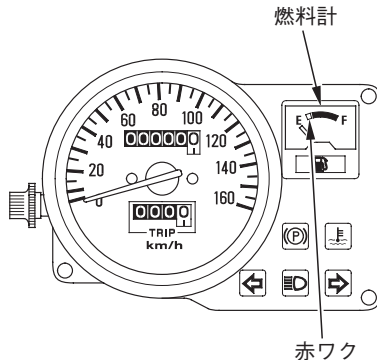
メータの見かた、使いかた

燃料計

燃料タンク内のガソリンの量を示します。

指針が赤ワクに入りかけたときは、早めにガソリンを補給してください。

このときの燃料残量；約 2.0 ℓ



警告灯・表示灯

水温警告灯

メインスイッチが“ON”のとき、エンジン冷却水の温度が規定以上になると点灯します。

エンジン回転中は点灯しないのが正常です。

エンジン回転中に点灯した場合オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

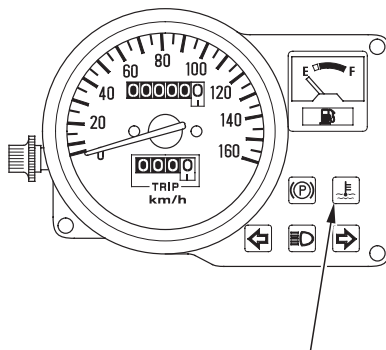
処置手順は、108 ページ参照。

アドバイス

- 水温警告灯が点灯したまま、走行を続けしないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

知 識

- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。



水温警告灯

メータの見かた、使いかた

パーキングブレーキ警告灯

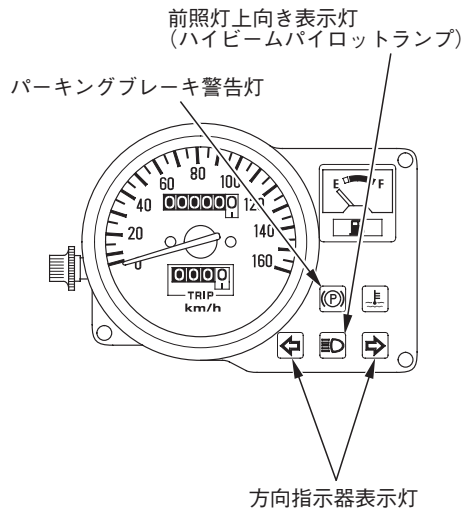
パーキングブレーキグリップが完全に戻っていないときに点灯します。

方向指示器表示灯

方向指示器が点滅しているときに点滅します。
非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を使用しているときは、左右の表示灯が同時に点滅します。

前照灯上向き表示灯(ハイビームパイロットランプ)

照射角が上向きのときに点灯します。



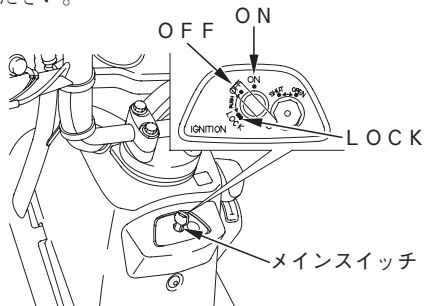
スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。



キーの位置	作 用	キーの脱 着
O N	始動・昼夜間走行 ●前照灯(ヘッドライト)などが常時点灯する ●ホーン・方向指示器・制動灯(ストップランプ)などが使える	抜けない
O F F	停止 ●電気回路を全部遮断する	抜ける
L O C K	ハンドルのロックができる ●電気回路を全部遮断する	抜ける

シャッターの操作については 30 ページを参照してください。

スイッチの使いかた

アドバイス

- この車はメインスイッチを“ON”にすると前照灯(ヘッドライト)が常時点灯します。エンジンをかけずに“ON”の状態にしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

- 車を離れるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。また、メインスイッチのシャッターを閉じ、シャッターのキーもお持ちください。

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)

《前照灯(ヘッドライト)の上下切換え》

前照灯上下切換えスイッチを押して行います。

☷D (H I)……前照灯(ヘッドライト)が上向き

☷D (L O)……前照灯(ヘッドライト)が下向き

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

パッシングライトスイッチ

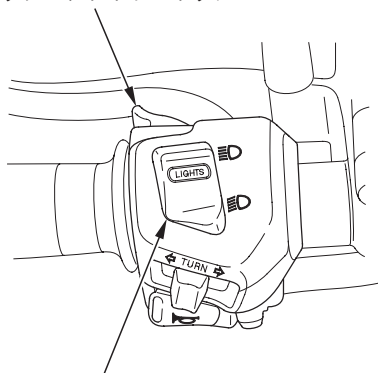
追越しのときに、自車の存在を知らせるためのものです。

《使いかた》

パッシングライトスイッチを押して行います。

前照灯上下切換えスイッチが上向きのときは作動しません。

パッシングライトスイッチ



前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)

スイッチの使いかた

エンジンストップスイッチ

エンジンストップスイッチは、転倒など非常の場合に、手もとですぐにエンジンを止めるために設けたものです。

通常は“○”(RUN)の位置にしておいてください。

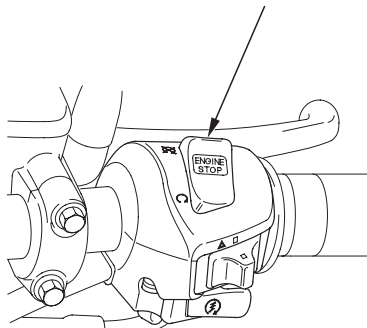
“”(OFF)の位置ではエンジンはかかりません。

エンジンストップスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。走行中にエンジンストップスイッチをRUN→OFF→RUNにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

エンジンストップスイッチ



スタータスイッチ

スイッチを押している間、スタータモータが回転し、エンジンを始動させます。



アドバイス

- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリーがあがるおそれがあります。

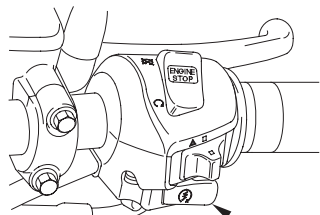


知識

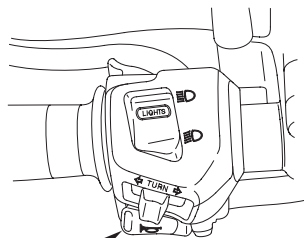
- エンジンストップスイッチが“” (OFF) のときはスタータモータは回転しません。
- スタータモータ作動時はヘッドライトが消灯します。

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



スタータスイッチ



ホーンスイッチ

スイッチの使いかた

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

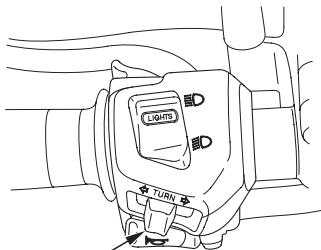
《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

⇒ … 右折

⇐ … 左折



方向指示器スイッチ

知識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用すると、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。

非常駐車灯スイッチ (ハザードスイッチ)

スイッチを入れると、すべての方向指示器のランプが点滅します。

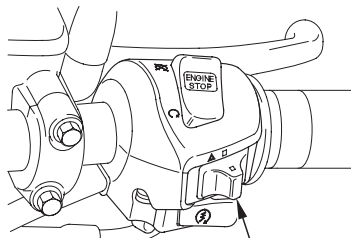
故障等で、やむを得ず路上に駐車するときに使用します。非常時にのみ使用してください。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にして非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を横に動かし、“ON”の位置(△マーク)に合わせます。

知 識

- 完全充電のバッテリーでも約20分以上使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。
- 非常駐車灯を使用した後は、必ずスイッチを解除してください。解除しないと方向指示器は作動しません。



非常駐車灯スイッチ
(ハザードスイッチ)

装備の使いかた

パーキングブレーキ

この車には、駐車時などに使用する、パーキングブレーキが装備されています。

《かけかた》

パーキングブレーキグリップを手前に引くと、後輪がロックします。

《外しかた》

パーキングブレーキグリップの後部を軽く押し下げたまま前方へ戻すと、後輪のロックは外れます。パーキングブレーキ警告灯が消灯しているか確認してから走行してください。

知 識

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

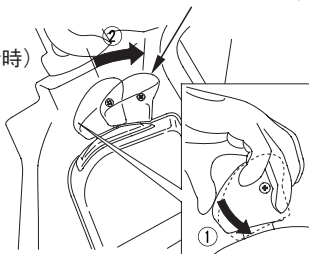
《かけかた》 パーキングブレーキグリップ

引く(駐車時)



《外しかた》 パーキングブレーキグリップ

戻す(走行時)



ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

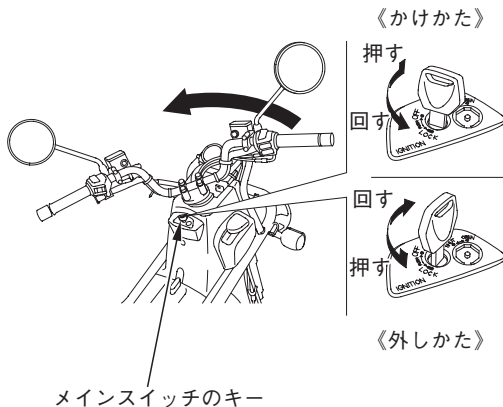
1. ハンドルを左または右にいっぱいにきります。
2. メインスイッチのキーをいっぱいまで押し込み、“OFF”から“LOCK”の位置まで回します。
3. ロックがかかりにくい場合は、多少ハンドルを左右に動かしてください。

《外しかた》

- メインスイッチのキーをいっぱいまで押し込み、“LOCK”から“OFF”に回すとロックが解除されます。

知 識

- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。



装備の使いかた

シャッター

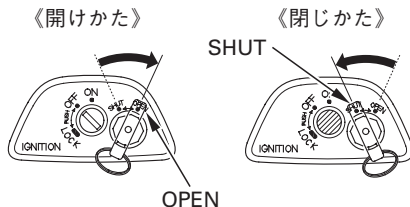
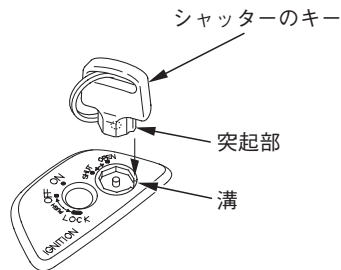
盗難やいたずら防止のため、メインスイッチにシャッターを装備しています。車から離れるときは、シャッターを閉じましょう。

《開けかた》

シャッターのキーの突起部を溝にあわせて差し込み、“OPEN”の位置まで回します。

《閉じかた》

メインスイッチのキーを抜き、シャッターのキーの突起部を溝にあわせて差し込み、“SHUT”の位置まで回します。



ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。

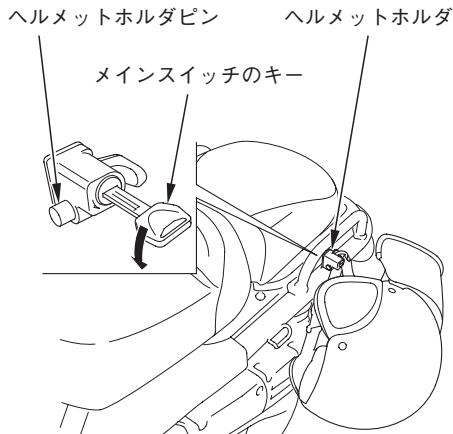
走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

《使いかた》

1. メインスイッチのキーを左に回し、ヘルメットホルダピンのロックを解除します。
2. ヘルメットホルダピンにヘルメットの金具をかけ、ヘルメットホルダピンを押してロックします。

《外しかた》

- かけかたと同じ方法でヘルメットホルダピンのロックを解除して、ヘルメットを取外します。



装備の使いかた

シート

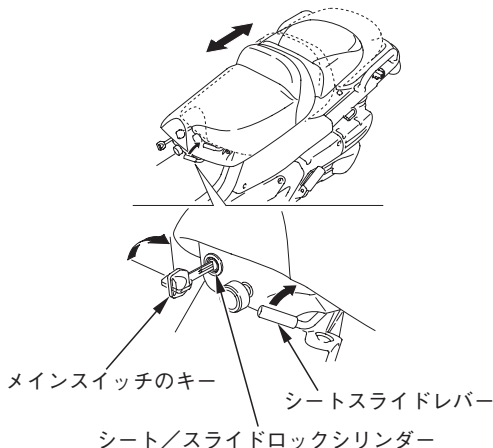
この車にはライダーの体格や好みに合わせて最適なライディングポジションの調整が行えるシートスライド機能と、状況に応じてリヤシートの使いかたを変えることができる機能がついています。

- リヤシートを起こすとバックレストになります。また、リヤデッキに荷物を積むためのスペースを作ることができます。
- リヤシートを倒すと二人乗りをするための後部座席になります。

《シートのスライドのしかた》

1. 平坦地でメインスタンドを立て、メインスイッチのキーをフロントシート前方下にあるシート／スライドロックシリンダーに差し込みます。
2. メインスイッチのキーを右に回しシート／スライドロックを外します。
3. シートスライドレバーを引き上げながらシートをスライドさせ、好みの位置でレバーを戻します。
シート位置は10段階に調整ができます。

4. シートを前後にゆすってしっかりとシートが固定されたかを確認してください。
5. メインスイッチのキーを左に回し、シート／スライドロックをかけてキーを抜きます。



- シートをスライドさせる時は、操作する人やまわりの人の手や指がシートのスライドする範囲内にないことを確認してください。

アドバイス

- リヤシートに同乗者が乗車したままでシートをスライドしないでください。シートレールを損傷する場合があります。
- リヤデッキに荷物を積んだままシートをスライドさせないでください。シートや荷物が損傷したり、荷物を固定しているロープがゆるんだり、はずれたりする場合があります。

知 識

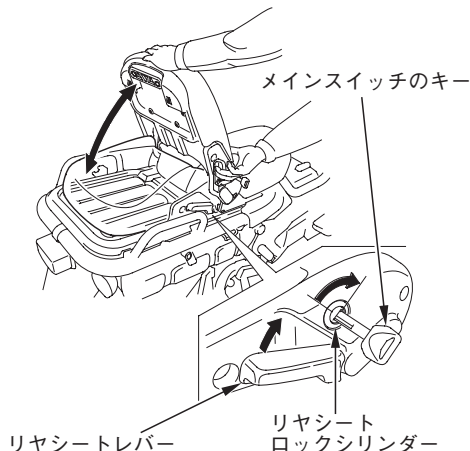
- シートをスライドさせる場合はメインスイッチのキーでシート／スライドロックを外した状態でなければ調整できません。
- シート／スライドロックシリンダーにはハーフロック防止機能がついていますのでシートがしっかりと固定されていないとキーは抜けません。
- 洗車後や雨が降ったあとには、シートの隙間に残った水をふき取ってから乗車してください。

装備の使いかた

《リヤシートの起こしかた》

1. 平坦地でメインスタンドを立て、メインスイッチのキーをリヤシート右側にあるリヤシートロックシリンダーに差し込みます。
2. メインスイッチのキーを右に回しロックを外します。
3. リヤシートレバーを引き上げながらリヤシートが止まるまで持ち上げ、レバーを戻します。
4. リヤシートがしっかりと固定されたかを確認し、メインスイッチのキーを左に回し、ロックをかけてキーを抜きます。

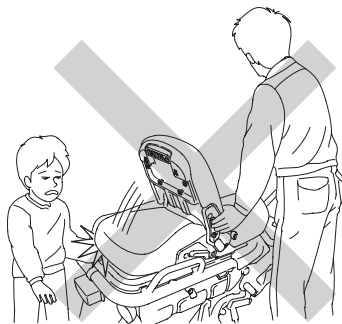
4. メインスイッチのキーを左に回し、ロックをかけてキーを抜きます。
キーが回らない場合はシートを少し下に押しながらキーを左に回してロックしてください。



《リヤシートの倒しかた》

1. 平坦地でメインスタンドを立て、メインスイッチのキーをリヤシート右側にあるリヤシートロックシリンダーに差し込みます。
2. メインスイッチのキーを右に回しロックを外します。
3. リヤシートレバーを引き上げながらリヤシート後部に手を添えてゆっくりとシートを倒します。

- リヤシートを操作する場合は、操作する人やまわりの人の手や指などがリヤデッキやリヤシート可動部分にないことを確認してください。



アドバイス

- リヤシートには角度調整機能がありませんので、シートを勢いよく倒すとリヤデッキ、シートが損傷する場合があります。リヤシートを操作するときは必ず両手で操作してください。

知 識

- リヤシートを操作する場合は、メインスイッチのキーでロックを外した状態でなければ操作できません。
- リヤシートのはさみ込み防止のため、メインスイッチのキーでロックをかけない限り、倒した状態では完全にシートが固定されないようになっています。
- リヤシートロックシリンダーにはハーフロック防止機能がついていますので、リヤシートを起こした状態では、シートがしっかりと固定されていないとキーは抜けません。

装備の使いかた

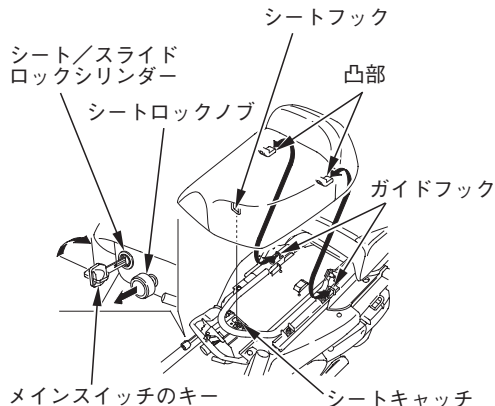
フロントシートの脱着

《取外しかた》

1. メインスイッチのキーをフロントシート前方下にあるシート／スライドロックシリンダーに差し込みます。
2. メインスイッチのキーを右に回しシート／スライドロックを外します。
3. シートロックノブを手前に引きながらフロントシートの前部を軽く持ち上げます。
4. フロントシートを前方にずらしながら取外します。

《取付けかた》

1. フロントシートの凸部をガイドフックにセットし、シートフックをシートキャッチに合わせます。
2. フロントシートの前部を軽く押し下げます。シート前部を軽く持ち上げ、シートフックが確実にロックされているか確認してください。
3. メインスイッチのキーを左に回し、シート／スライドロックをかけてキーを抜きます。



アドバイス

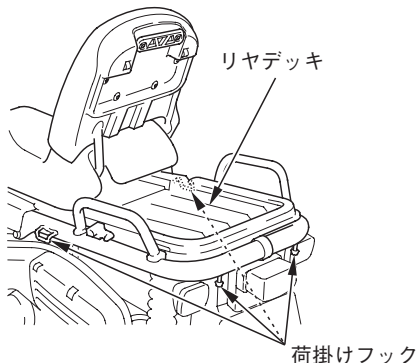
- フロントシートを取付ける場合は、リヤシートの可動部等にフロントシート後部を強く当てないでください。シートに傷がついたり破れる場合があります。

リヤデッキ

リヤシートを起こすと荷物を積むためのスペースを作ることができます。

リヤシートの操作は 34 ページを参照してください。

リヤデッキへの荷物の積載は、**20.0 kg**までです。



- 荷物をのせて走行する場合は、荷掛けフックをつかい、ロープなどで荷物をしっかりと固定し、車体から荷物がはみ出したりしないように積んでください。

知 識

- 貴重品やこわれやすいものは積まないでください。

装備の使いかた

フロントキャリア

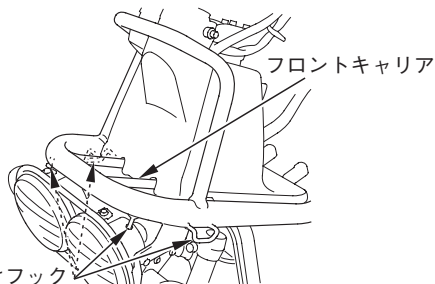
ヘッドライトの上には荷物を積むためのスペースがあります。

フロントキャリアへの荷物の積載は、**3.0 kg** までです。

荷物をのせて走行する場合は、荷掛けフックをつかい、ロープなどで荷物をしっかりと固定し、車体から荷物がはみ出したりしないように積んでください。

知 識

- 貴重品やこわれやすいものは積まないでください。



ユーティリティーボックス

車体後方右側にユーティリティーボックスがあります。

ユーティリティーボックス内に、書類・携帯工具入れがあります。

ユーティリティーボックス内への荷物の積載は、**1.5 kg**までです。

《開けかた》

メインスイッチのキーを差し込み、右に回します。
キーを持ち、手前に引いてカバーを開けます。

《閉じかた》

メインスイッチのキーを右に回したままカバーを閉じ、キーを左に回してロックし、キーを抜きます。

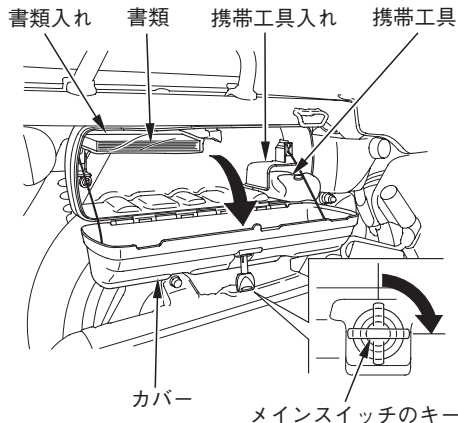
書類・携帯工具入れ

書類

取扱説明書やメンテナンスノートなどはビニール袋に入れ、書類入れに格納してください。

携帯工具

携帯工具は携帯工具入れに格納してください。



知 識

- 貴重品やこわれやすいものは積まないでください。
- 洗車時、ユーティリティーボックスに強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。

燃料の補給

《使用燃料》

無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。
補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

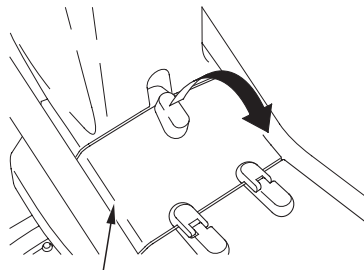
身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

ガソリンを補給するときは、

- 燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
- 給油作業は静電気を除去した人のみで行なってください。

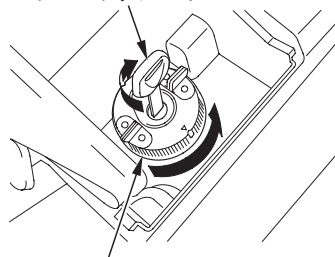
《補給のしかた》

1. 燃料タンクリッドを開けます。
2. メインスイッチのキーを燃料タンクキャップに差し込み、右に回します。
3. 燃料タンクキャップを左に回して開けます。



燃料タンクリッド

メインスイッチのキー



燃料タンクキャップ

燃料の補給

4. ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

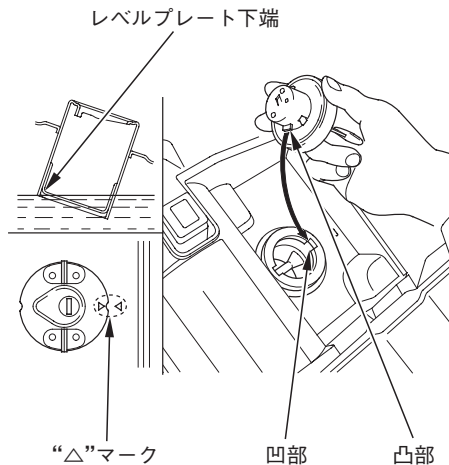
ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出てことがあります。

5. 燃料タンクキャップの凸部と燃料タンクの凹部を合わせ、キャップを取付け、右に回します。タンクキャップの“△”マークとキャップの下の“△”マークが合うところまで確実に回します。

6. メインスイッチのキーを左に回し、キーを抜きます。

燃料タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。

7. 燃料タンクリッドを閉じます。



正しい運転操作

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、45 - 47 ページの「始動手順」に従い行ってください。

- エンジンをかける前に、オイル、ガソリンなどの点検をしましたか。
必ず点検を行ってください。
(日常点検は、61 ページ参照)
- エンジンをかけるときは、必ずメインスタンドを立ててください。
- 急な飛び出しを防ぐために始動時は、必ず左ブレーキレバーを強く握った状態で行ってください。
- 左ブレーキレバーを強く握った状態でないとスタータモータは回転しません。

アドバイス

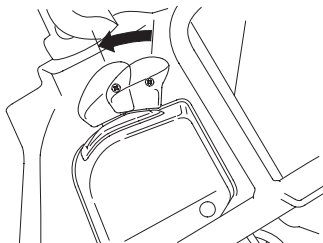
- スタータスイッチを押して5秒以内にエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”にし、10秒くらい休んでから再びメインスイッチを“ON”にして、スタータスイッチを押してください。
これはバッテリー電圧を回復させるためです。
- 無用の空ふかしや長時間の暖機運転はしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン等に悪影響を与えます。

知 識

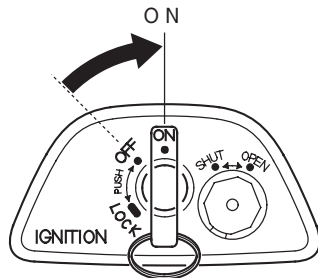
- この車には、サイドスタンドを出したままではエンジンがかからないイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。エンジンをかける前に、必ずサイドスタンドを格納してください。
また、エンジンがかかっているときにサイドスタンドを使用すると、エンジンが止まります。サイドスタンドは、エンジンを止めてから使用してください。

《始動手順》

- ① パーキングブレーキグリップを手前に引き、後輪をロックします。(28 ページ参照)
- ③ メインスイッチを“ON”にします。

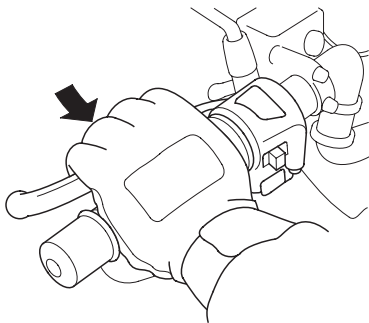


- ② エンジnstoppスイッチが“○”(RUN)になっていることを確認します。



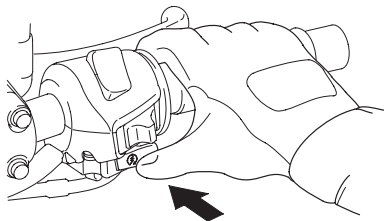
正しい運転操作

- ④ 左ブレーキレバーを強く握ります。



- ⑤ スロットルグリップを回さずに、スタートスイッチを押します。

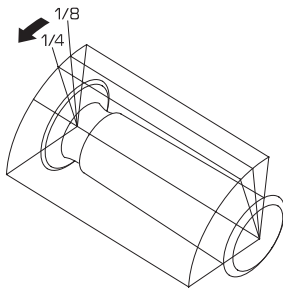
エンジンがかかったらすぐに、スタートスイッチから手をはなしてください。



知識

- エンジンが回転しているときスタートスイッチを押さないでください。エンジンに悪影響を与えます。

- エンジンが暖まっていて3～4秒スタータスイッチを押しても、エンジンがかからない。このような場合は、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回すとかかりやすくなります。



- ⑥ エンジンが冷えているときは、エンジンがかかってからしばらくの間、そのまま暖機をしてください。

- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータスイッチを普段より多目に使用してください。

- 暖機をするときには必ずパーキングブレーキをかけ、後輪をロックしてください。ブレーキロックケーブルの調整が正しく行われていないとロックできません。

正しい運転操作

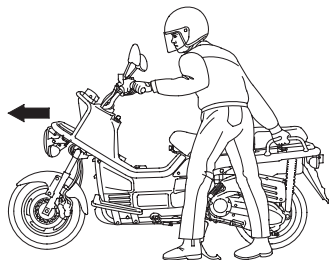
スタートするとき

① メインスタンドを外します。

- パーキングブレーキをかけたままで、車を前に押し、メインスタンドを外してください。

エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。

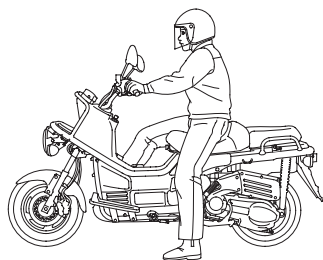
乗車する前に、サイドスタンド、メインスタンドは完全に納まっているか確認してください。



② 乗車します。

- 車の左側から乗車し、シートにしっかりと腰をおろします。このとき足を地面につけて、倒れないようにしてください。

乗車してスタートするまではパーキングブレーキはかけたままにしておいてください。

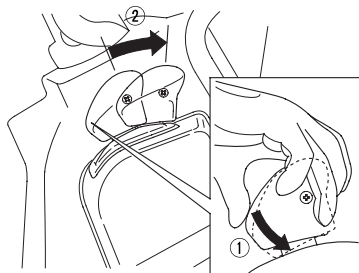


- ③ パーキングブレーキを外します。(28 ページ参照)

パーキングブレーキ警告灯が消灯しているか確認します。

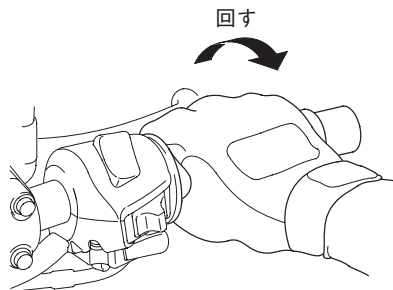
パーキングブレーキを外すときは、左ブレーキレバーをにぎってください。

左ブレーキレバーを離すときは、スロットルグリップを回さないでください。飛び出しなどの危険性があります。



- ④ スロットルグリップをゆっくり回せば車は走り出します。

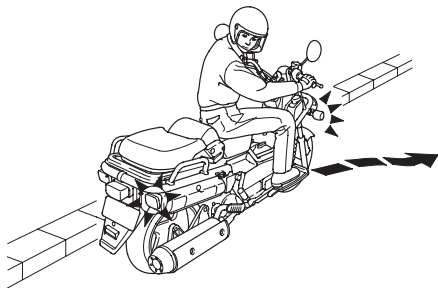
スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。



正しい運転操作

正しい走りかた

スタート前に方向指示器スイッチで合図を出し、後方の安全を確認してからスタートしましょう。



速度調整は、スロットルグリップで行います。

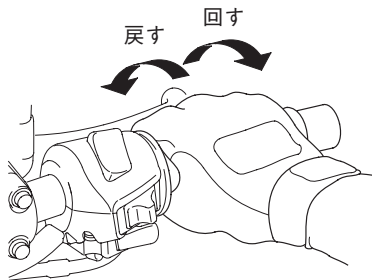
回す……速度が速くなる。

ゆっくり回しましょう。

登り坂ではスロットルグリップを徐々に回して力をつけましょう。

戻す……速度が遅くなる。

すばやく戻しましょう。

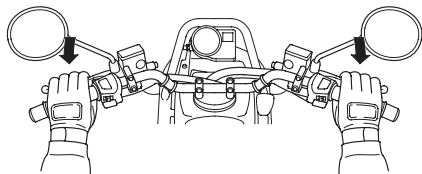


ブレーキの使いかた

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

- スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- “はじめやんわり、あときつく”がブレーキの上手なかけかたです。

走行中は、パーキングブレーキグリップを操作しないでください。ブレーキがロックされ危険です。

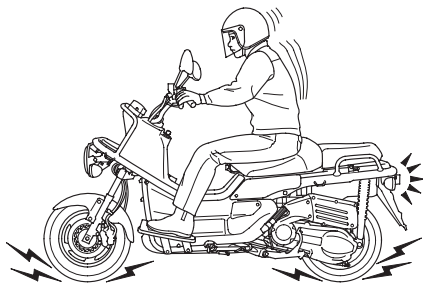


左ブレーキレバー

右ブレーキレバー

不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。



正しい運転操作

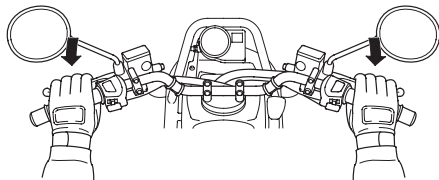
雨の日は、とくに慎重に走りましょう。

- 雨の日や路面がぬれているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキをかけるなど余裕をもって操作しましょう。
- 下り坂では、スロットルグリップを戻して速度に応じてブレーキをかけながらゆっくり走りましょう。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 雪道や凍った道はすべりやすいので十分に気をつけて、ゆっくり走りましょう。

止まりかた

① 止まる地点が近づいたら、

- 早めに方向指示器スイッチで合図を出し、後方や側方の車に注意し、徐々に左に寄りましょう。
- スロットルグリップを戻して、早めに左・右のブレーキレバーを引きブレーキをかけましょう。制動灯(ストップランプ)が点灯し、後車への合図になります。



左ブレーキレバー

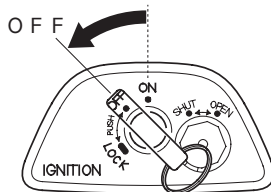
右ブレーキレバー

② 完全に車が止まったら、

- 方向指示器スイッチを戻し、メインスイッチのキーを“OFF”の位置にしてエンジンを止めます。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

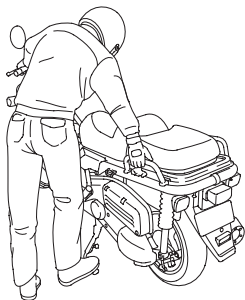
メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。



正しい運転操作

③ 左側におりて、平らな場所でスタンドを立てましょう。

- 交通のじゃまにならない平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てましょう。不安定な場所では車が倒れることがあります。
- メインスタンドを使用する場合は、左手でハンドルをまっすぐにして、右手でグラブレールをしっかりと持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立てましょう。



④ 盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチのキーを抜き、シャッターを閉めておきましょう。

(29 ～ 30 ページ参照)

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

慣らし運転を行いましょう。

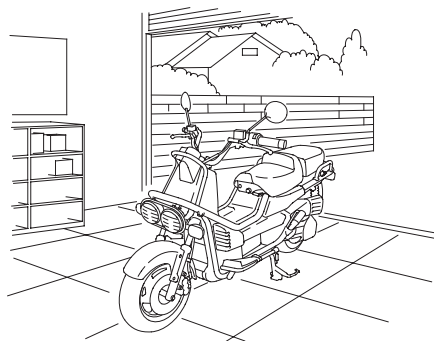
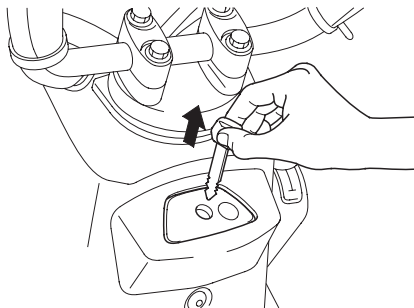
適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。

この車は乗り始めてから500 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

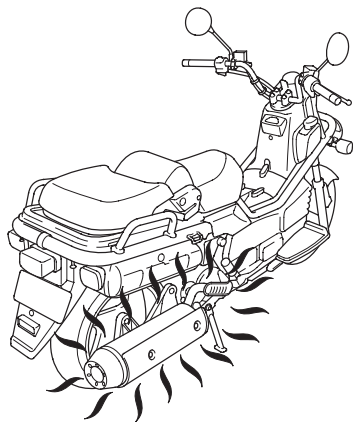
— メモ —

メンテナンスを安全に行うために

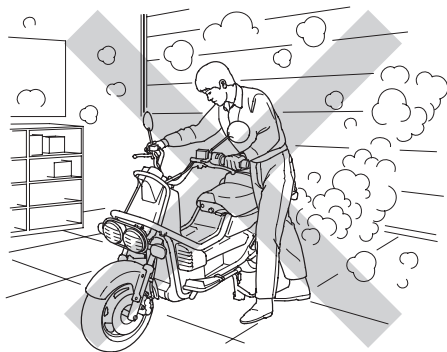
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

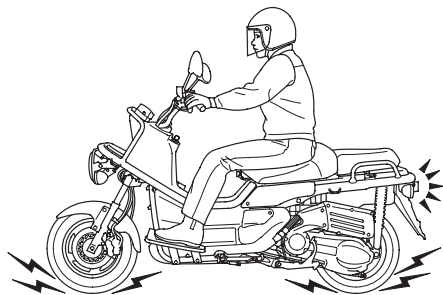


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



メンテナンスを安全に行うために

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。



日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、道路運送車両法で1日1回の日常点検と6か月、12か月毎の定期点検整備を行うことが義務づけられています。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。



警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について	60
交換部品について	60
日常点検	61
メンテナンス部品配置図	62
定期点検	64
6か月点検項目	65
簡単なメンテナンス	66
ブレーキ	67
パーキングブレーキ	71
タイヤ	72
エンジンオイル	76
冷却水	81
バッテリー	84
ヒューズ	88
ファイナルギヤオイル	91
ベルトケースエアクリーナ	93
エアクリーナ	94
ケーブル・ワイヤ類	96
ブリーザドレン	97

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

1 か月目点検について

新車から 1 か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。

お買いあげのHonda販売店で行ってください。

他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。

また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」の14ページをご覧ください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda純正部品”をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。

お求めは、Honda販売店にご相談ください。

純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS

日常点検

日常点検

お車をご使用の方には、1日1回運転する前に点検を行うことが法で定められています。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。

下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。66 ページ以後を参照してください。

また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」の21ページ以後をご覧ください。

日常点検項目

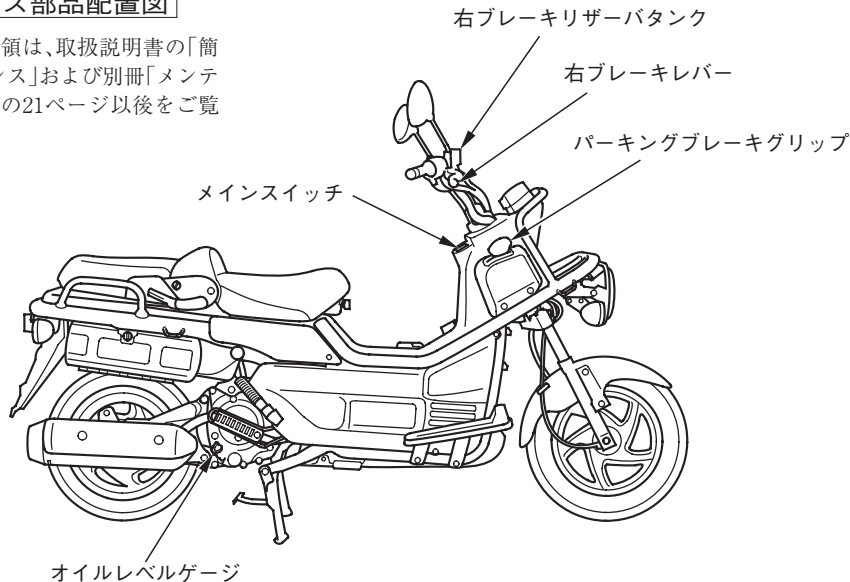
- ブレーキ
 - ・レバーの遊び(油圧式)
 - ・ブレーキのきき具合
 - ・ブレーキ液の量
- タイヤ
 - ・空気圧
 - ・亀裂、損傷
 - ・異状な摩耗
 - ・溝の深さ(※)
- エンジン
 - ・冷却水の量(※)
 - ・エンジンオイルの量(※)
(4サイクル車)
 - ・かかり具合、異音(※)
 - ・低速、加速の状態(※)
- 灯火装置及び方向指示器
- 運行において異状が認められた箇所

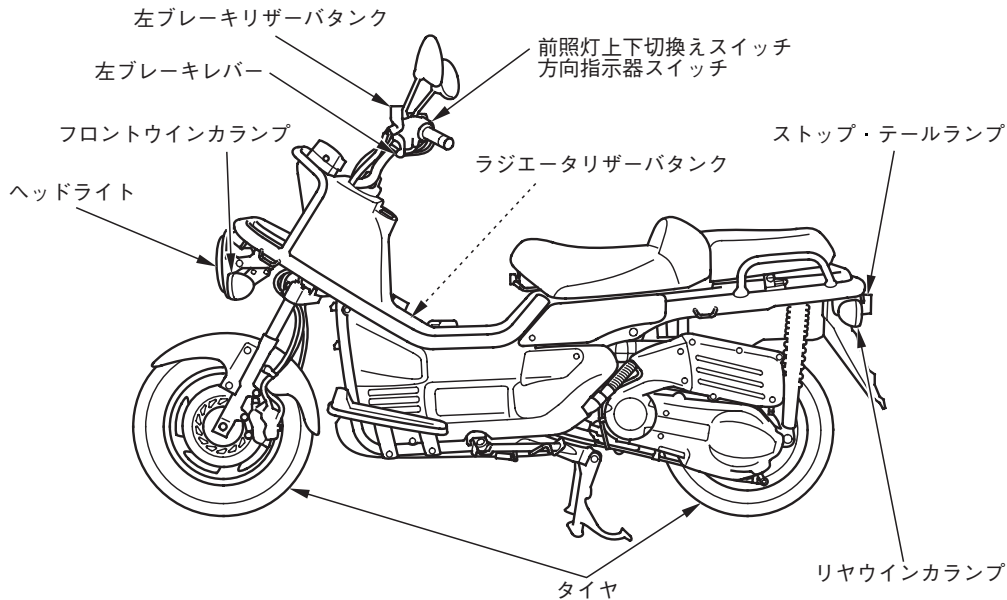
(※)印の点検は、お車の走行距離、運転時の状態等から判断した適切な時期(長距離走行前や洗車時、給油時等)に行う項目です。

日常点検

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」の21ページ以後をご覧ください。





定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法で定められた6か月、12か月ごとの点検と、使い始めてから1か月目（または、1,000 km時）に行う点検があります。

また、これらの法定点検項目のほかにHondaが指定する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。

点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、112 ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

6 か月点検項目は、次ページにあります。

点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“定期点検の解説”（25 ページ）をご覧ください。

6 か月点検項目

点検内容は、別冊「メンテナンスノート」の 25 ページをご覧ください。

- 点火装置
 - ・ スパークプラグの状態
- エンジン本体
 - ・ 排気ガスの状態
- 潤滑装置
 - ・ エンジンオイルの漏れ
- クラッチ
 - ・ クラッチの作用
- トランスミッション
 - ・ オイルの漏れ、量
- ブレーキペダル及び
ブレーキレバー
 - ・ 遊び
 - ・ ブレーキのきき具合
- ホース及びパイプ
 - ・ 漏れ、損傷、取付状態
- ブレーキドラム及び
ブレーキシュー
 - ・ ドラムとライニングのすき間
- ホイール
 - ・ タイヤの状態
 - ・ ホイールのボルト、ナットの緩み

Honda指定6か月点検整備項目

点検整備の内容は、本書の 68 および 97 ページを参照してください。

- ブレーキ装置
 - ・ パッドの摩耗
- ブローバイガス還元装置
 - ・ ブリーザドレンの清掃

簡単なメンテナンス

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス（点検整備）について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ

《ブレーキ液の量の点検》

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。

液面が下限(LOWER)以上にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合はブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。異状箇所の修理やブレーキ液の補充はHonda販売店にご相談ください。

指定ブレーキ液

Honda純正ブレーキフルード DOT 4

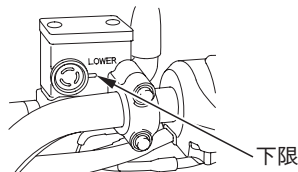


アドバイス

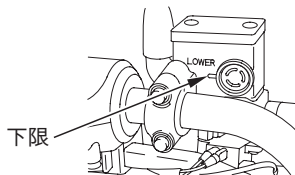
- 銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。

銘柄の異なるブレーキ液を使用すると、ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

[右ブレーキ]



[左ブレーキ]



簡単なメンテナンス

《ブレーキパッドの摩耗の点検》

(Honda指定 6 か月点検整備項目)

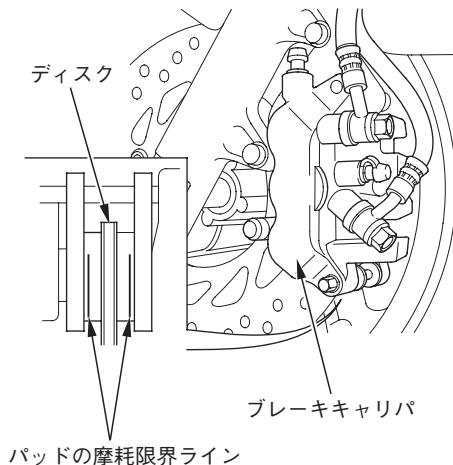
[前輪]

ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界ラインがブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。

ブレーキパッドの交換は、Honda販売店にご相談ください。

[前輪]



《左ブレーキレバーの遊びの点検》

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

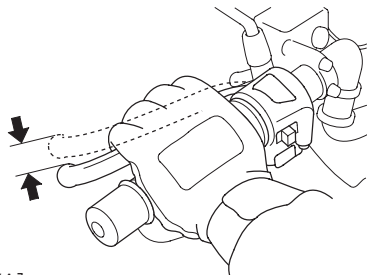
左ブレーキレバーの遊び：20－30 mm

規定の範囲を越えている場合は調整してください。

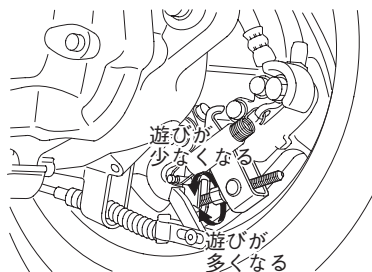
調整のしかた

アジャスタを1／4回転ずつ回し、遊びを調整します。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。



[後輪]



簡単なメンテナンス

《ブレーキシューの摩耗の点検》

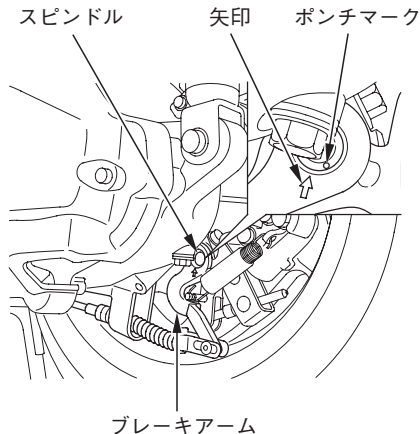
[後輪]

左ブレーキレバーの調整後、ブレーキアームの矢印とブレーキカムスピンドル部にあるポンチマークが一致していないことを確認します。

一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。

ブレーキシューの交換は、Honda販売店にご相談ください。

[後輪]



パーキングブレーキ

《パーキングブレーキグリップの引きしろ》

1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. グリップをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き下げて、規定ノッチ数の引っかかり音(カチカチ音)でグリップがロックするかを点検します。

グリップの引きしろ: 2～4 ノッチ

規定の範囲を超えている場合は、調整が必要です。
Honda販売店にご相談ください。



簡単なメンテナンス

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。

常に適正な空気圧を保ってください。

また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。



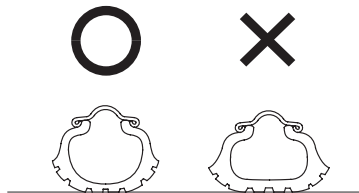
過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。



タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一ヵ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で調整してください。

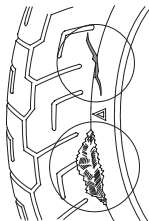
タイヤの空気圧

1人乗車時	前 輪	175 kPa (1.75 kgf/cm ²)
	後 輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
2人乗車時	前 輪	175 kPa (1.75 kgf/cm ²)
	後 輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)

《亀裂と損傷の点検》

タイヤの全周に亀裂や損傷及び釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越えた時は、必ず点検してください。

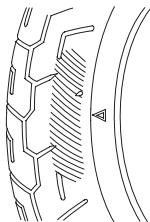


簡単なメンテナンス

《異状な摩耗の点検》

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

タイヤの状態が異状な場合は、Honda販売店にご相談ください。



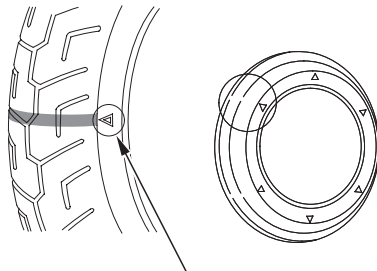
《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

また、安全な走行のためトレッド中央部の溝の深さが次の数値になったときは交換してください。

前輪 1.5 mm 後輪 2.0 mm



ウェアインジケータ
表示マーク

《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。



警告

指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

指定タイヤ

前 輪	サイズ	110/90-12 64L
	タイプ	I R C SS-550 DUAL チューブレス
後 輪	サイズ	130/70-12 56L
	タイプ	I R C SS-550 DUAL チューブレス

簡単なメンテナンス

エンジンオイル

エンジンの性能を維持するためには、定期的なエンジンオイルの点検・補給が必要です。

汚れたオイルや古くなったオイルは、エンジンに悪影響を与えますので、早目に交換してください。エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを3～5分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。
4. オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。

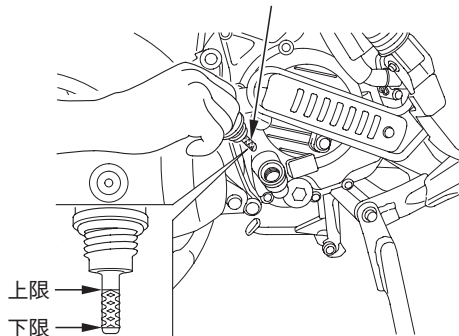
5. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。

オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。

エンジンオイルの補給は、次ページ参照。

6. オイルレベルゲージを確実に取付けます。

オイルレベルゲージ



《オイルの補給》

推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	J A S O T 903規格	S A E 規格	A P I 分類
ウルトラ E 1	M B	10W—30	S J 級

相当品をご使用の場合

オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。

- JASO T 903 規格(二輪車用オイル規格):MB
- SAE規格:外気温に応じ79 ページの表から選択
- API分類:SG、SH、SJ 級相当

相当品がすべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。



アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。

オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

簡単なメンテナンス

🏍️ アドバイス

- API規格マークの入っている相当品を使用する場合、エナジーコンサービングを取得したオイルには摩擦係数の低いものがあり推奨しません。



推奨しません



推奨します

🎓 知識

- JASO T 903規格とは4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



上段: オイル販売会社の
整理番号

下段: 性能分類の表示
MB性能であることを
示しています

JASO T 903 適合品

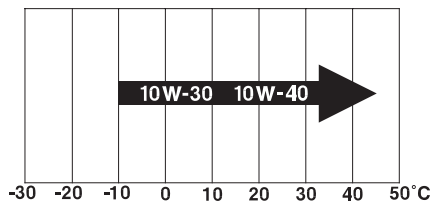
本MB性能の品質保証者

本田技研工業株式会社

外気温と粘度との関係

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを
下表にもとづきお使いください。

(S A E 規格)



(外気温)

交換時期

初回:1,000 kmまたは1 か月

以後:6,000 kmまたは1 年ごと

エンジンオイルの交換は、Honda販売店にご相談
ください。

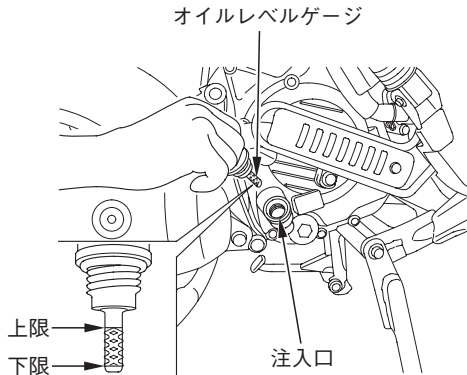
簡単なメンテナンス

補給のしかた

1. 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを3～5分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4. オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、注入口よりオイルを上限まで補給します。

補給するときは、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

5. オイルレベルゲージを確実に取付けます。



アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

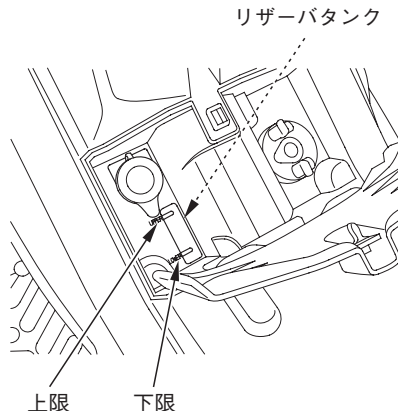
冷却水

《冷却水量の点検》

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. 燃料タンクリッドを開けます。
3. 冷却水がリザーバタンクの上限と下限の間にあることを確認します。
水量が下限に近かったら、上限まで補給します。
冷却水の補給は、次ページを参照してください。

冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、ホースなどからの水漏れが考えられます。
また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。

Honda販売店にご相談ください。



簡単なメンテナンス

《冷却水の補給》

補給はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。



アドバイス

- 指定以外のラジエータ液や不適當な水を使うとさびなどの原因となります。



エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

冷却水指定液

Honda純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。

指定濃度:30%(寒冷地は50%)

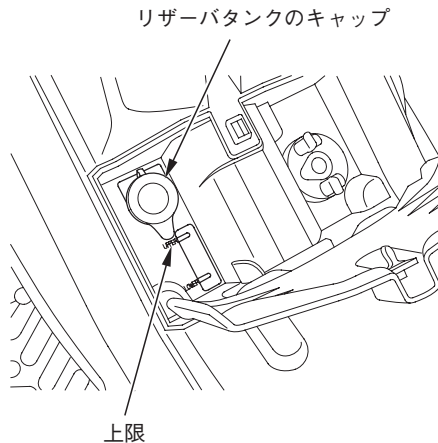
濃度による不凍温度は、

30%の場合 -16°C まで

50%の場合 -37°C まで

補給のしかた

1. 燃料タンクリッドを開けます。
2. リザーバタンクのキャップを外します。
3. 平坦地で車体を垂直にし、リザーバタンクの上限まで冷却水を補給します。
4. キャップを取付け、燃料タンクリッドを閉めます。



簡単なメンテナンス

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。

バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリーの取扱い

- バッテリー取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリー液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
バッテリーの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目につ着したとき
ー コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚につ着したとき
ー 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
ー 水、または牛乳を飲んでください。
応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

《バッテリーターミナル部の清掃》

清掃のしかた

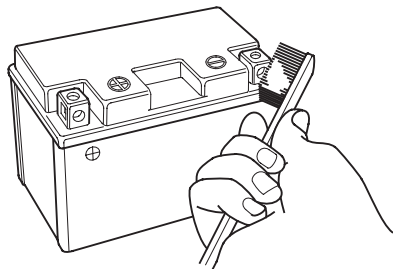
バッテリーを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーを取付けます。

その後、ターミナル部にグリースを薄く塗ります。

バッテリーを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。



簡単なメンテナンス

《バッテリーの取付け、取外し》

取外し

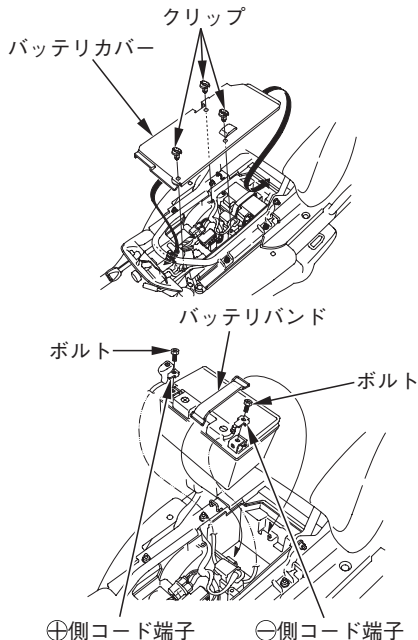
1. リヤシートを起こします。(34 ページ参照)
2. フロントシートを取外します。(36 ページ参照)
3. クリップを外し(次ページ参照)、バッテリーカバーを取外します。
4. バッテリーバンドを取外します。
5. ⊖側コード端子のボルトを外し、⊖側コードを外します。
6. ⊕側コード端子のボルトを外して、⊕側コードを外します。
7. バッテリーを取出します。

取付け

取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。

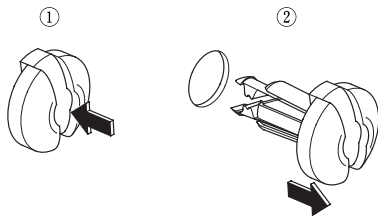
また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。



《クリップの取外し、取付けかた》

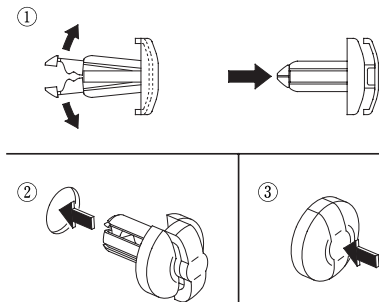
取外し

- ①中央部のピンを押し込んでロックを解除します。
- ②クリップを引き抜きます。



取付け

- ①ピンの先端を軽く開きながら、ピンを押し戻して取付け状態にします。
- ②クリップを穴に差し込みます。
- ③ピンを軽く押してロックします。



簡単なメンテナンス

ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

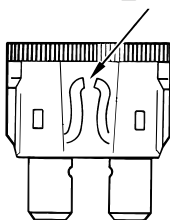
交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。



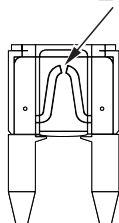
アドバイス

- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「Honda アクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。

ヒューズ切れ

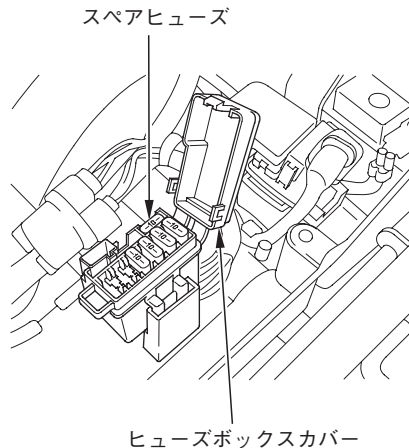


ヒューズ切れ



ヒューズボックス内のヒューズ

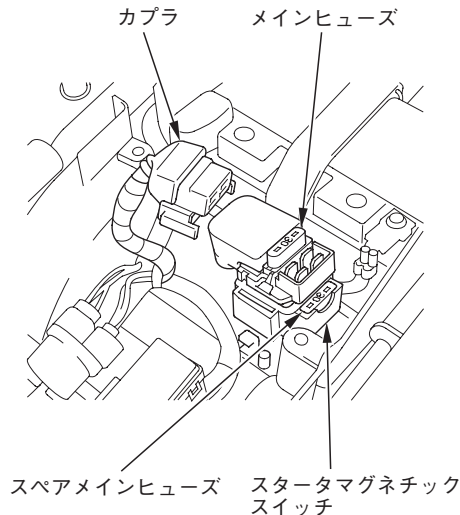
1. リヤシートを起こします。(34 ページ参照)
2. フロントシートを取外します。(36 ページ参照)
3. クリップを外し(87 ページ参照)、バッテリーカバーを取外します。
4. ヒューズボックスのカバーを開けます。
故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認します。
スペアヒューズは、ヒューズボックス内にあります。
5. ヒューズボックスカバーを閉め、バッテリーカバーを取付けます。
6. フロントシートを取付けます。



簡単なメンテナンス

メインヒューズ

1. リヤシートを起こします。(34 ページ参照)
2. フロントシートを取外します。(36 ページ参照)
3. クリップを外し(87 ページ参照)、バッテリーカバーを取外します。
4. スタータマグネチックスイッチのカプラを外します。
5. メインヒューズを引き抜き、確認します。
スペアメインヒューズは、スタータマグネチックスイッチに取付けられています。
6. カプラ、バッテリーカバーを取付け、フロントシートを取付けます。



ファイナルギヤオイル

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

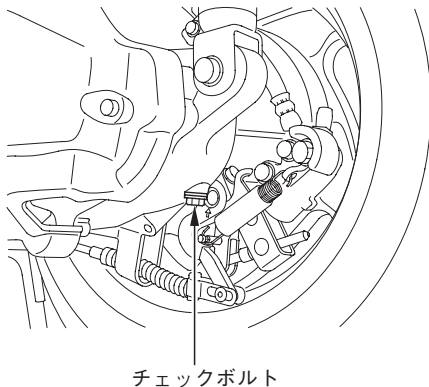
《オイル量の点検》

1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルチェックボルトを外します。
3. ボルト穴からオイルが出てくることを確認します。

油面が低く、ボルト穴からオイルが出てこない場合は、オイルを補給してください。

オイルの補給は、Honda販売店にご相談ください。

4. オイルチェックボルトを確実に取付ます。



アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、悪影響を与えます。

簡単なメンテナンス

推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	J A S O T 903規格	S A E 規格	A P I 分類
ウルトラG 1	MA	10W-30	S J 級

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。

JASO T 903規格(二輪車用オイル規格):MA

SAE規格:10W-30

API分類:SG, SH, SJ級相当

または

ハイポイドギヤオイル #90

🔧 アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。
オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

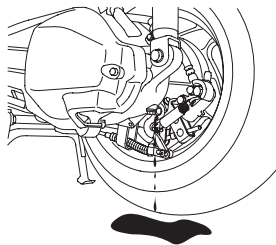
交換時期

4年ごと

ファイナルギヤオイルの交換は、Honda販売店にご相談ください。

《オイル漏れの点検》

ファイナルリダクションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。



ベルトケースエアクリーナ

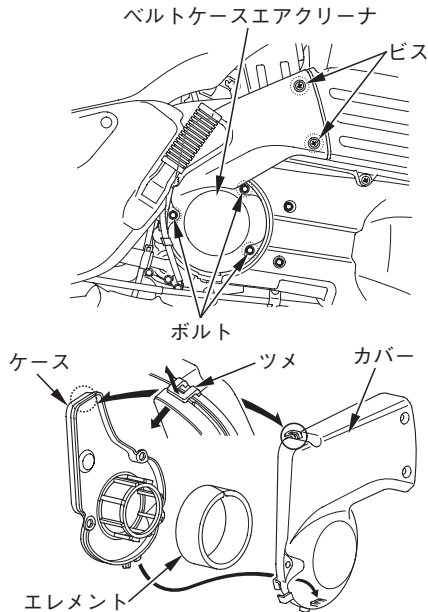
《ベルトケースエアクリーナの点検、清掃》

12カ月毎に点検し、汚れのひどい場合は、清掃してください。

1. ボルトとビスを外し、ベルトケースエアクリーナを取外します。
2. ツメを外し、カバーを取外します。
3. ケースからエレメントを取外します。
4. エレメントを洗油で洗浄し、完全に乾かします。
5. ケースにエレメントを取付け、カバーを取付けます。
6. ベルトケースエアクリーナを取付けます。

🔧 アドバイス

- エレメントは完全に乾かしてから取付けてください。
- また、オイルには浸さないでください。



簡単なメンテナンス

エアクリーナ

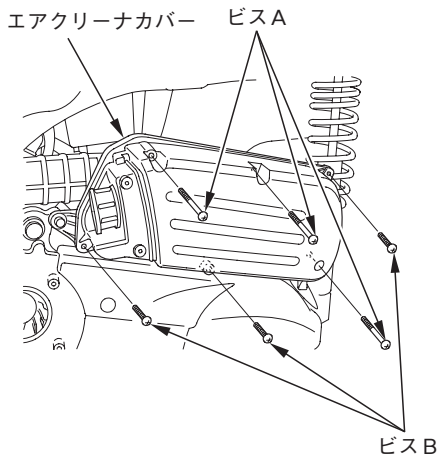
この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナエレメントが装備されており、点検・清掃は不要です。

20,000 km ごとに交換してください。

《エアクリーナエレメントの交換》

《取外し》

1. ベルトケースエアクリーナを外します。(93ページ参照)
2. エアクリーナカバーを止めているビスA、ビスBを外し、カバーを取外します。

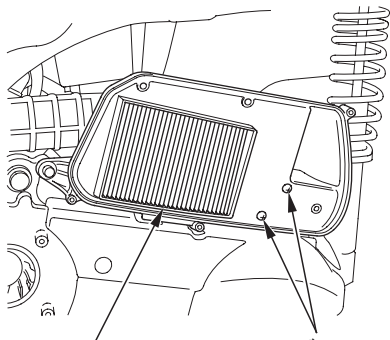


3. ビスCを外し、エアクリーナエレメントを取外します。

新しいエアクリーナエレメントと交換します。

《取付け》

取付けは、取外しの逆手順で行います。



エアクリーナエレメント

ビスC



アドバイス

- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

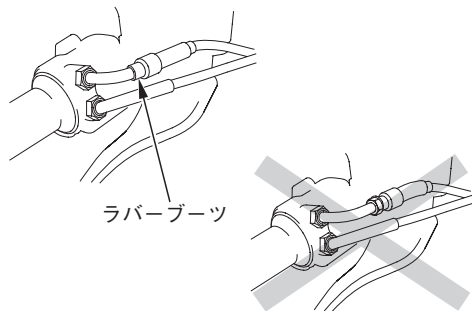
簡単なメンテナンス

ケーブル・ワイヤ類

《ラバーブーツの点検》

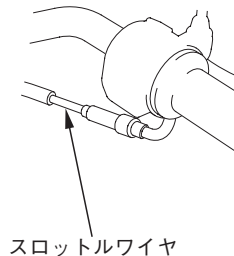
ケーブル類にはインナーケーブル保護のため、ラバーブーツが取付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。

洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭き取るようにしてください。



《ケーブル・ワイヤ類の点検》

スロットルグリップを作動させ、スムーズに動くか、作動が異状に重くないか、スロットルグリップから手を放したときにグリップがスムーズに戻るかを点検してください。また、ケーブル・ワイヤの外表部に損傷がないかを点検してください。異状を感じた場合はHonda販売店にご相談ください。

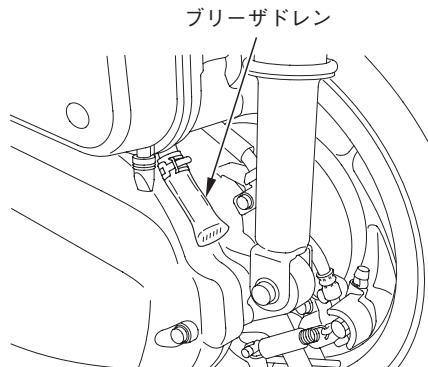


ブリーザドレン

《ブリーザドレンの清掃》

(Honda指定6か月点検整備項目)

1. ブリーザドレンの下に受け皿等を用意します。
2. ブリーザドレンを外し、ブリーザドレン内の堆積物を取除きます。
3. ブリーザドレンを確実に取付けます。



車のお手入れ

お車を定期的に清掃することは、品質や性能を維持するために大切な作業です。

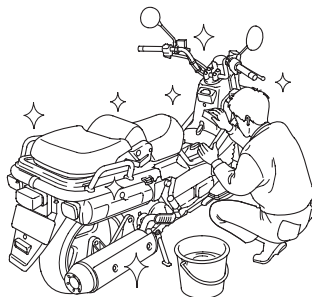
普段見逃しがちな異常の発見にもつながります。

また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。

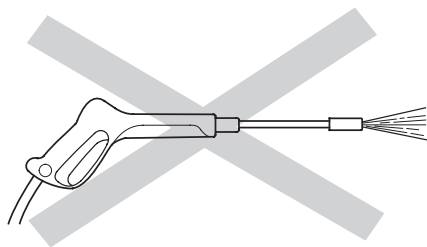
海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。

《洗車のしかた》

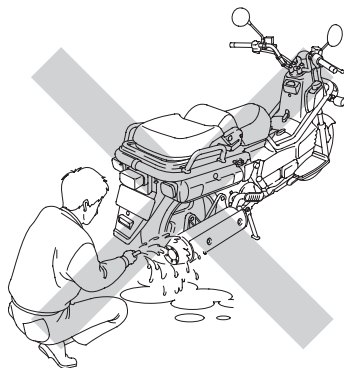
1. 水を流しながら柔らかい布やスポンジで汚れを落としてください。
汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。
2. 柔らかい布で拭きあげてください。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取付け部へ注油し、その後、車体の腐食を防ぐため、ワックスがけを行なってください。



- 洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機などのような車体に高い水圧がかかる洗車は避けてください。
特に可動部や電装部品等にかかると、作動不良や故障の原因となることがあります。



- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因となることがあります。



車のお手入れ

- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 洗車時、ユーティリティボックスに強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。
- 洗車直後などにヘッドライト内部がくもることがあります。この場合、ヘッドライトを点灯することでくもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。
- ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディが目立たないところでくもりやキズ、色むら等が生じないか確認してからご使用ください。また、ワックス等で強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。
- ブレーキディスクやパッドにワックス、オイル等の油脂類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
- ガソリン、オイル、バッテリー液または洗浄液等の化合物質が塗装面、樹脂部品にかかる、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。場合によっては亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。

アルミ部品の取扱い

この車のホイールはアルミニウム合金を使用しています。

アルミ部品は、塩分などの汚れを嫌います。また、他の金属部品と異なり、傷がつきやすくなっています。取扱いについては必ず次のことをお守りください。

《アルミホイール》

- 砂入り石鹸や硬いブラシは、傷をつけますので使用しないでください。
- 縁石への乗り上げやすり当てはさけてください。

つや消し塗装の取扱い

つや消し塗装車は、一般的な塗装と取扱いが異なります。

つや消し塗装を維持するため必ず次のことをお守りください。

《お手入れ》

- 汚れを落とす場合は、中性洗剤を使ってやさしい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。洗淨後は十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。

《取扱い》

- 塗装面にコンパウンドやコンパウンド入りワックスを使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。
- ご不明な点がございましたら、Honda販売店にご相談ください。

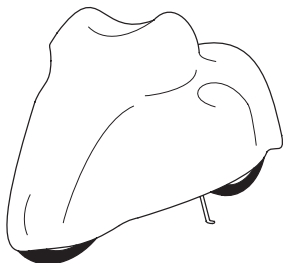
車のお手入れ

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知 識

- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。



長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。

- 大事なお車をサビから守るために、保管する前にワックスがけを行なってください。また、雨上がりには一度ボディカバーを外し、車体を乾燥させてください。
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、⊖側ターミナルを外してください。

地球環境の保護について

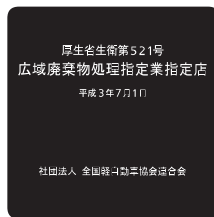
お車および部品等の廃棄をするとき

地球環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。

また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

《廃棄二輪車取扱店》

廃棄二輪車取扱店とは(社)全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪車取扱店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。廃棄二輪車取扱店には「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。



廃棄二輪車取扱店の証

地球環境の保護について

《二輪車リサイクルマーク／リサイクル料金》

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。

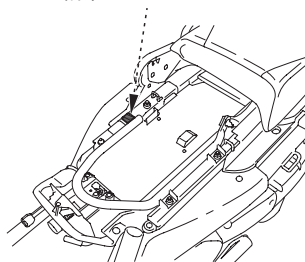
マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、お車をお客様から廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はおお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークはフロントシート下パイプフレームの右側に貼ってあります。



二輪車リサイクルマーク



《二輪車リサイクルマークの取扱い》

お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。

マークは車体から、剥がさないでください。

マークの紛失、破損による再発行および販売の取扱いはありません。

リサイクルマークの剥がれ等により、リサイクルマーク付対象車かどうか不明の場合は、下記の(財)自動車リサイクル促進センターホームページおよび二輪車リサイクルコールセンターにてご確認ください。

廃棄二輪車のお取扱いに関しては、最寄の廃棄二輪車取扱店または下記二輪車リサイクルコールセンターまでお問い合わせください。

(財)自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9:30~17:00

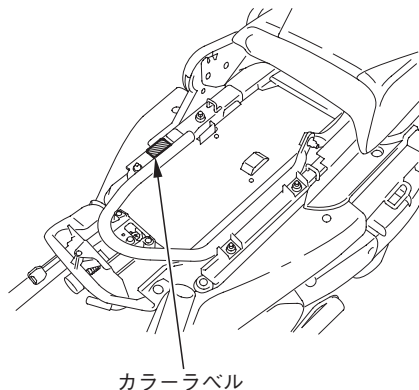
(土日祝日、年末年始等を除く)

色物部品をご注文のとき

マフラの純正マークについて

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、フロントシート下パイプフレームの右側に貼ってあります。



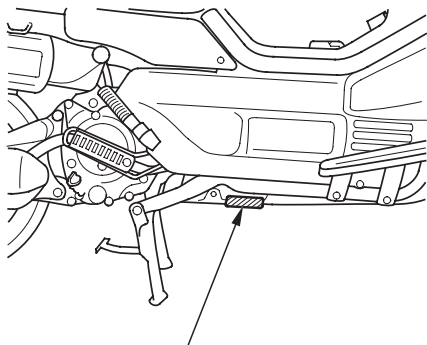
マフラの後部には、Honda純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。



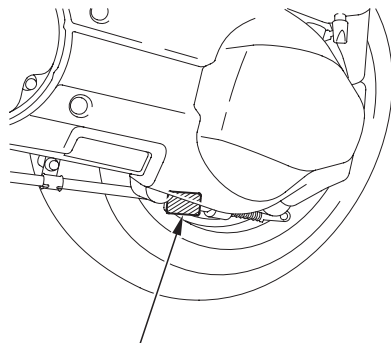
フレーム号機

フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。



フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置

オーバーヒートしたとき

《オーバーヒートの処置手順》

1. メインスイッチでエンジンを止め、再度メインスイッチを“ON”にします。
このとき、ラジエータの冷却ファンが作動するか、作動音で確認します。確認後、メインスイッチを“OFF”にします。
 - 冷却ファンが作動しない場合：
故障が考えられますので、エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。
 - 冷却ファンが作動する場合：
メインスイッチが“OFF”の状態、エンジンが冷えるのを待ちます。
2. エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水量を確認します。(81 ページ参照)
 - 冷却水が不足していたら、リザーバタンクに補給してください。(82 ページ参照)

3. ラジエータホースなどを点検し、水漏れがないか確認します。
 - 水漏れがある場合：
エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。
 - 水漏れがない場合：
走行可能です。ただし、異常が再発するときは、Honda販売店にご相談ください。
4. 異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。

故障の修理

- お近くのHonda販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くHonda販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

型	式	BA-MF09
長	さ	2,085 mm
幅		795 mm
高	さ	1,090 mm
軸	距	1,455 mm
原 動 機 種 類 / 総 排 気 量		ガソリン・4 サイクル / 0.249 ℓ
車 両 重 量		172 kg
乗 車 定 員		2 人
タイヤサイズ	前 輪	110/90-12 64L
	後 輪	130/70-12 56L
最 低 地 上 高		135 mm
燃 料 消 費 率 ※		37.2 km/ℓ (車速60 km/h 定地走行テスト値)
最 小 回 転 半 径		2.3 m
圧 縮 比		10.5
最 高 出 力		14 kW (19 PS) / 7,000 rpm
最 大 ト ル ク		21 N·m (2.1 kg·m) / 5,500 rpm
燃 料 タ ン ク 量		12 ℓ

※ 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

点 火 形 式	フル・トランジスタ式 バッテリ点火
点 火 時 期	BTDC11°/1,500 rpm
アイドリング回転数	1,500 rpm
点火プラグ	N G K
	DPR6EA 9 DPR7EA 9 DPR8EA 9
	D E N S O
	X20EPR－U9 X22EPR－U9 X24EPR－U9
蓄 電 池 (バ ッ テ リ)	12 V － 11 (10) Ah
機関から変速機までの減速比	1.000
ク ラ ッ チ 形 式	乾式多板シュー式
変 速 機 形 式	ベルト式
変 速 機 操 作 方 式	自動遠心式
第 一 減 速 比	2.714
第 二 減 速 比	2.533

サービスデータ

タイヤ空気圧	1 人乗車時	前輪	175 kPa (1.75 kgf/cm ²)
		後輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
	2 人乗車時	前輪	175 kPa (1.75 kgf/cm ²)
		後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)
エンジンオイルの量	全 容 量		1.3 ℓ
	オイル交換時		1.1 ℓ
ヒューズ	メインヒューズ		30 A
	ヒューズ		10 A
点火プラグの点火すきま			0.8－0.9 mm
エアクリーナエレメント	形 式		ろ紙式(ビスカスタイプ)
電球 (バルブ)	ヘッドライト		12 V－ 35/35 W ×2
	ストップ・テールランプ		12 V－ 21/5 W
	フロントウインカランプ		12 V－ 23/8 W
	リヤウインカランプ		12 V－ 23 W

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

オー ハ ロー バ イ ク

フリーダイヤル 0 1 2 0-0 8 6 8 1 9

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町 8-1

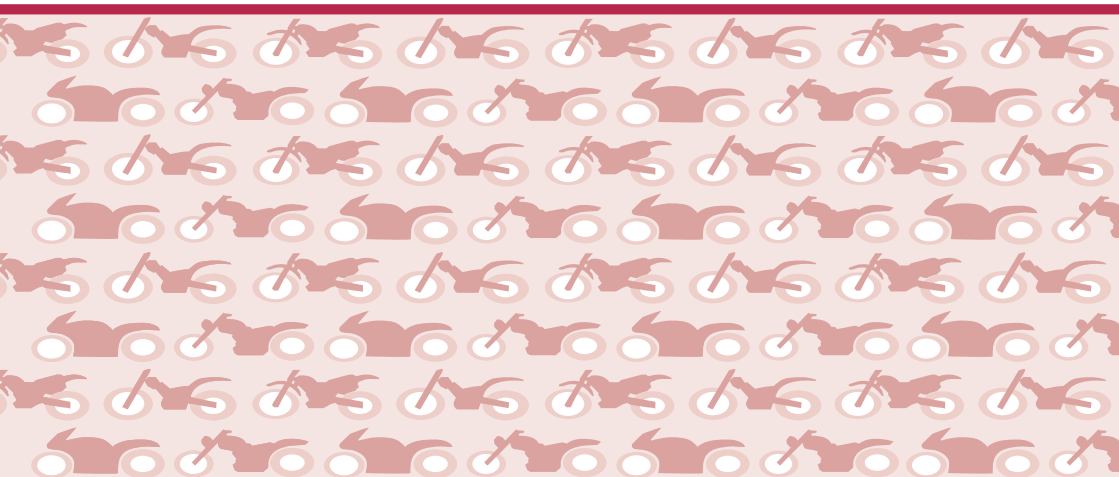
所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車についてお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ②車種名、タイプ名、走行距離
- ③ご購入年月日
- ④販売店名

HONDA

The Power of Dreams



30KTB620
00X30-KTB-6200



古紙配合率100% (表紙40%) の再生紙を使用しています。

Y (HC) 700.2005.11.6
© 2005 本田技研工業株式会社